

# 鹿島神宮と鹿島の太刀

横浜歴史研究会

小川眞一

2025. 7. 6

## 自己紹介

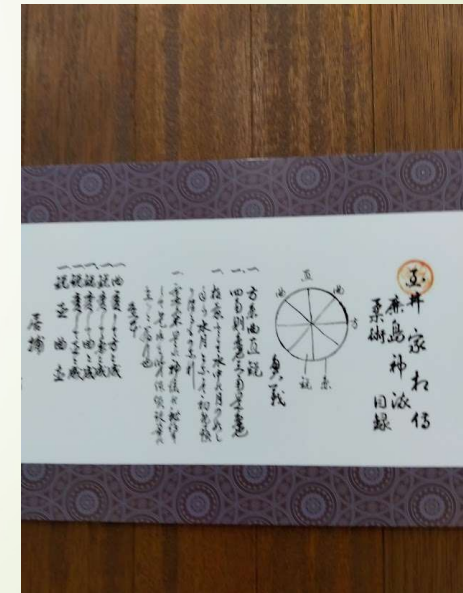
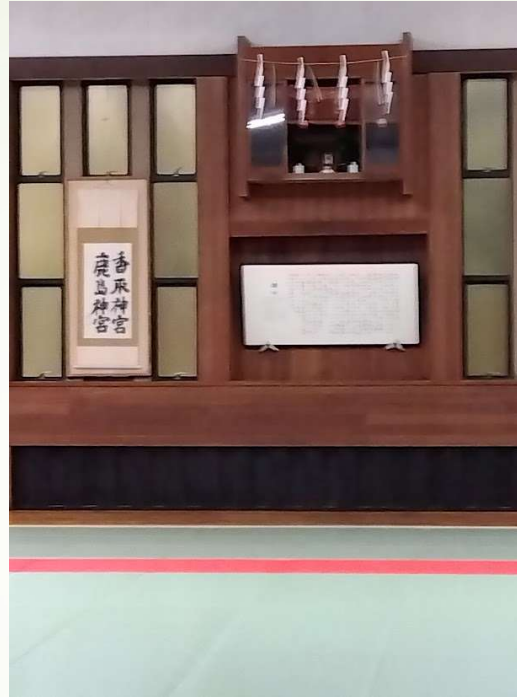
1946年 名古屋生まれ サラリーマン時代に12年間の海外生活を経験して日本の伝統文化に興味をもっています。文武両道を旨として明治神宮の武道場に20年以上通い合気道と剣術を稽古しています。自主論文として「平安京の梵鐘」「武人西行の人生」「防人歌の言霊」を執筆

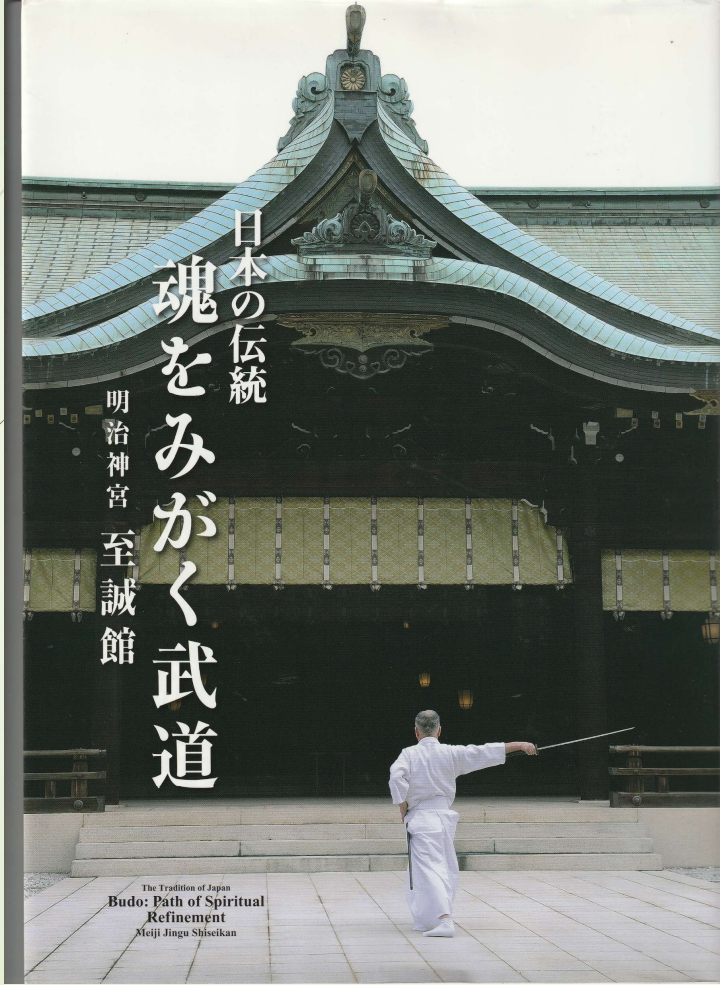
# 目次

1. 鹿島武術の歴史と伝承
2. 鹿島の太刀の神話的背景
3. 鹿島と香取
4. 塚原卜伝～鹿島新当流
5. 「一の太刀」の術理と体系
6. 武道の歴史
7. 武道と神道

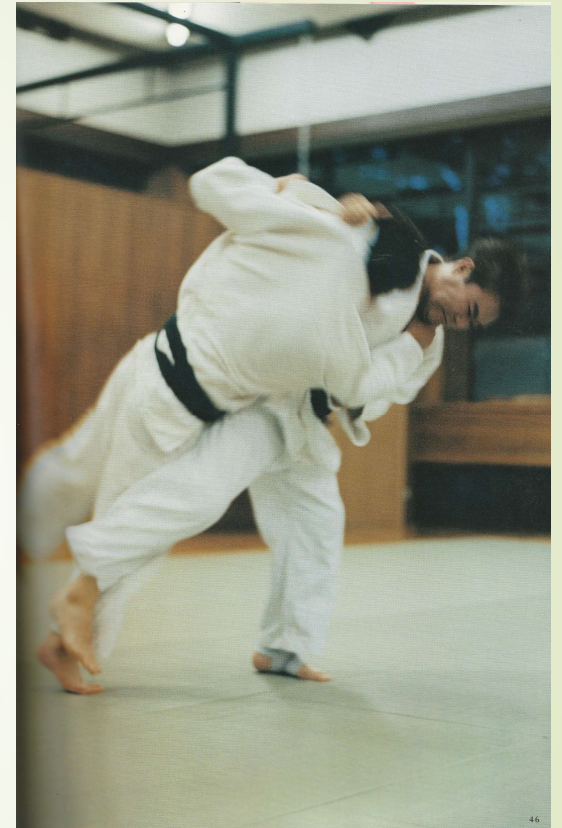
- 古代日本の東国の辺境で権威を守る鹿島神宮の謎
- 祭神「武御雷神」とは何か？
- 神剣「篩霊剣剣」（フルノミタマノツルギ）とは？
- 鹿島と香取の地理と歴史ー特殊な祭りと不思議
- 神道流剣術「鹿島の太刀」とは何か？
- 武道と神道の関係は何か？



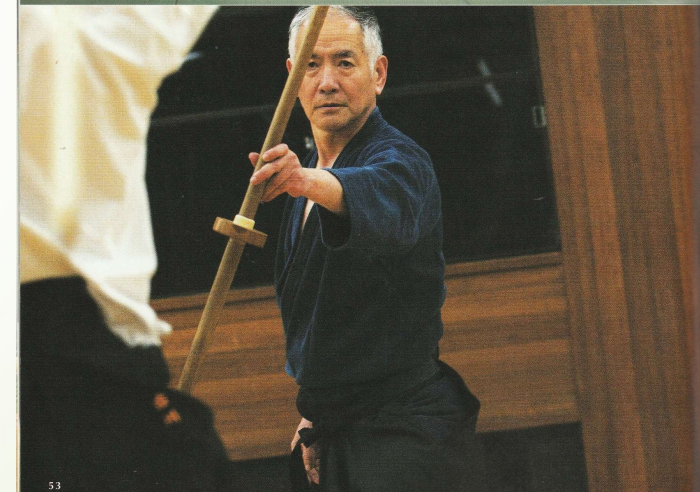












## 鹿島の秘太刀一至誠館 明治



<https://www.youtube.com/watch?v=sleJNQYABqY>

# 鹿島武術の歴史と伝承

## 鹿島の太刀とは

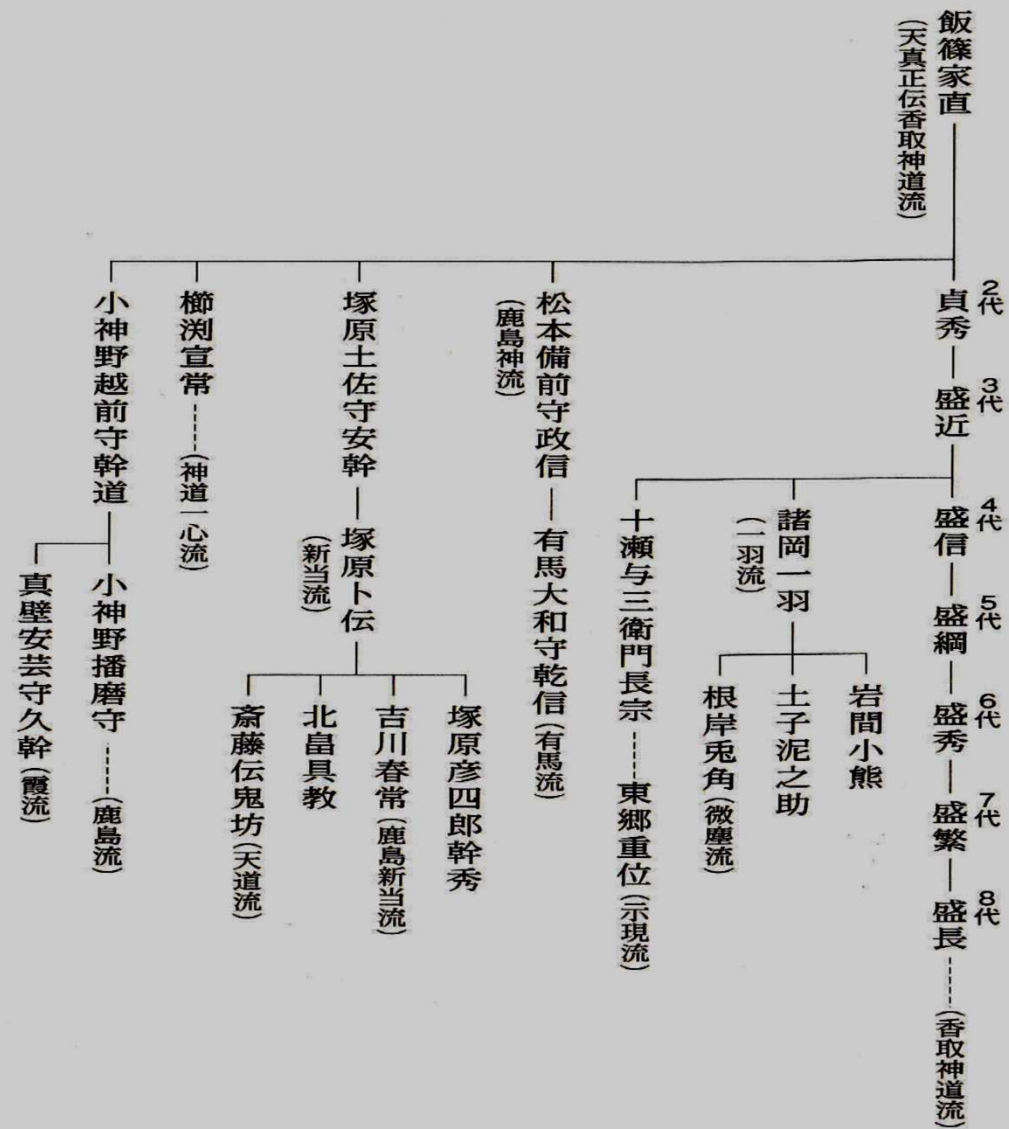
- 「鹿島の太刀」は最も古い日本武術の源流
- 流派武術：念流、陰流、**鹿島の太刀**が三大源流（室町後期）
- **鹿島神宮**を中心に流派が発生、神職たちにより展開してきた。
- 神道色が強く、武術の理念・術理に神話のイメージが強い。
- **「国譲り神話」「神武東征神話」**
- 国摩真人（くになずのまひと）一神妙剣～千日参籠開眼一鹿島中古流
- 鹿島の太刀（鹿島流剣術）は、**塚原卜伝**を中興の祖とする新当流とその流れをくむ系統
- 鹿島神宮（**武御雷神**）香取神宮（**経津主神**）を祭神とする伝承



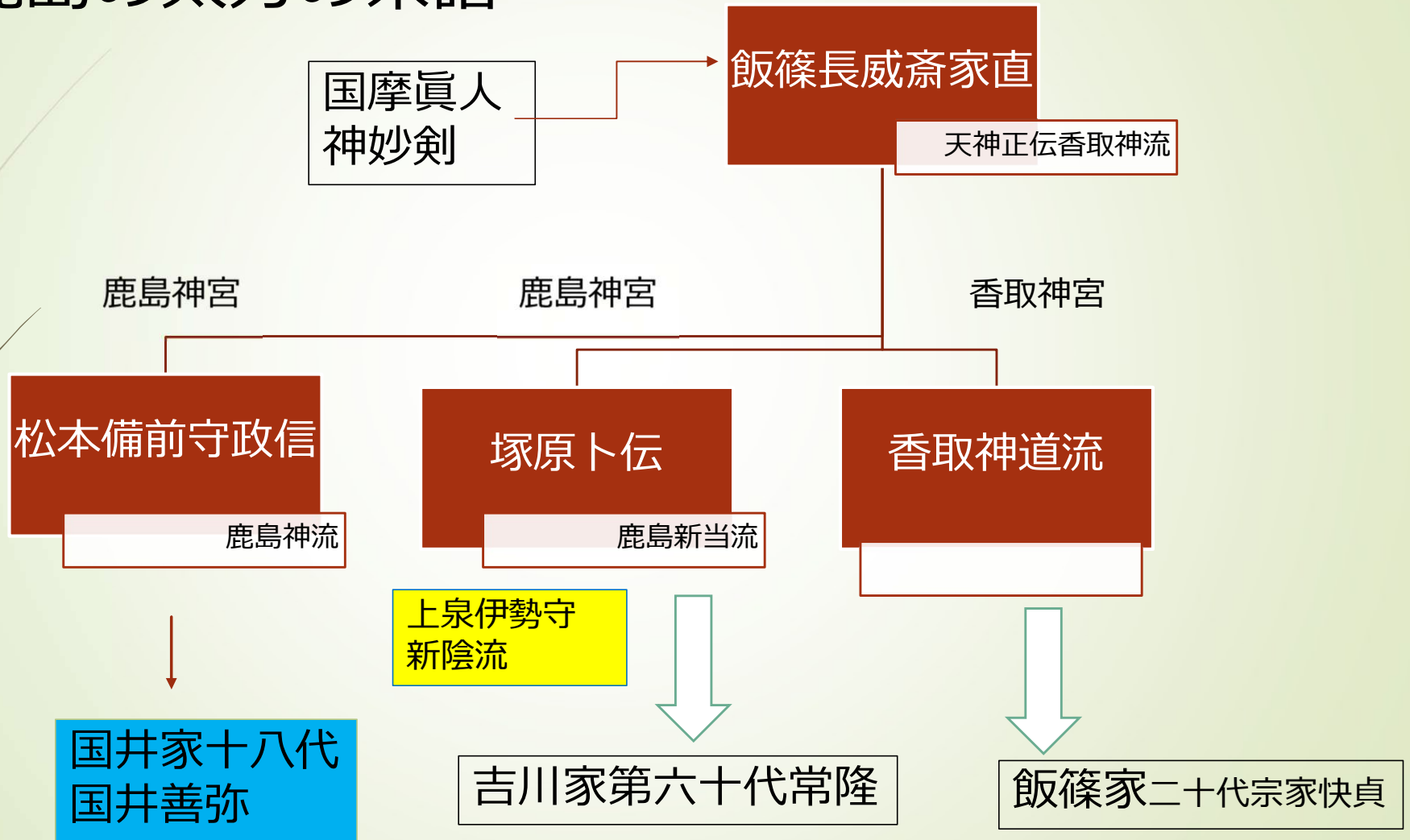
# 鹿島の太刀 系統図

12

【剣術 鹿島の太刀系統図】



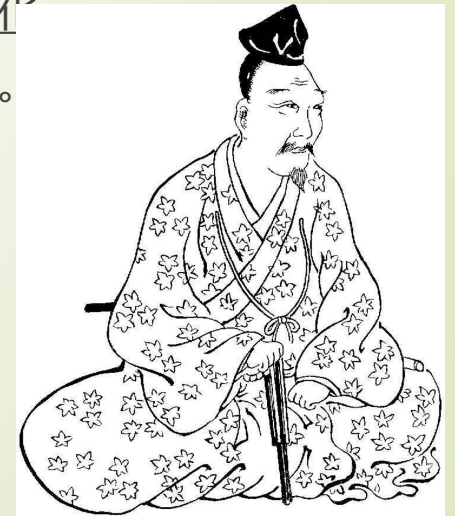




# 鹿島の太刀の剣豪たち

## 飯篠長威斎家直

- 1387年（元中4年）～1488年（長享2年）（102歳？）
- 下総国飯篠村（多古町）、元千葉氏家臣、足利義政にも仕官
- 「日本兵法中興の祖」（中興刀槍の始祖）～近世剣法の三大始祖
- 天神正伝香取神道流の創始者
- 60歳のとき香取神宮の奥の宮に近い梅木山に籠り、1千日の厳しい修行、鹿島の神術を大悟
- 香取神宮と鹿島神宮の神職に伝承されていた「香取の剣・鹿島の剣」を元にし、決まった「型」の無かった日本武術の世界において、百般に亘る武道の原型を体系化
- 弟子には、松本備前守政信、塚原土佐守（安幹）、卜伝（高幹）、諸岡一羽など。
- 「**兵法は平法なりすべからく戦わずして勝つべし**」
- 「武術は互いに血を流す戦さのためではない」



# 天真香取神道流

- **日本最古の武術流派：剣術を中心に居合術、薙刀術、槍術、柔術、手裏剣、くさり鎌、小太刀、二刀流など百般にわたる総合武術：武芸十八般**
- **「型の稽古で体で覚える」**～実戦の時は自然に無意識に型ができる。
- **戦国時代の実践を想定した型が特徴で、甲冑の隙間を狙う急所攻撃や、武器同士が激しくぶつかり合う迫力ある動きが特徴**
- **剣はやわらかく握り、両かかとを地につけ「前後左右自由に動ける」自然な姿勢**
- **表之太刀（四ヶ条）五行之太刀（五ヶ条）極意七條之太刀（三ヶ条）、両刀術（四ヶ条）、極意小太刀術（三ヶ条）**
- **飯篠家による伝承**（第22代宗家 飯篠快貞<sup>やすさだ</sup>）（師範家大竹利典<sup>りすけ</sup>）
- **「兵法は平法なり」**



## 塚原卜伝<sup>1489</sup>～<sup>1571</sup>

17

- 父祖伝来の**鹿島の神道流**（**鹿島古流**・**鹿島中古流**）に加え、養父祖伝来の**天真正伝香取神道流**を修めて、**鹿島新當流**を開いた。
- 吉川朝孝<sup>ともたか</sup>（幼名）→ 塚原高幹<sup>たかもと</sup> → 卜伝（号）
- 実父・覚賢からは**鹿島古流**（**鹿島中古流**も）を、義父・安幹と飯篠長威斎 から**天真正伝香取神道流**を学んだ。
- 塚原卜伝は**鹿島古流と天真正伝香取神道流**を学び両系統の技を継いだ
- 3回の回国修行（16歳、23歳、67歳）
- **鹿島神宮**に千日参籠により「**一の太刀**」を開眼
- **卜部吉川家**に家伝として継承——（第65代 吉岡常隆）
- 時代背景：政治的な全国統一がなされ、鉄砲伝来もあって大名たちは最強の武芸者をもとめ「**天下一**」を名乗る達人が多く表れた。彼らを祖とする流派が多数生まれる

## 鹿島新当流・塚原卜伝

18

- ◆ 生涯無敗！常陸国の名家に生まれた天才
- ◆ 元服前に**2つの流派**を体得した麒麟児
  - ・「**真剣の試合19度、戦場の働き37度一度も不覚を取らず、矢傷6か所以外傷一つ受けず立ち会って敵をとること212人といへり**」  
(卜伝百首奥書)

- ◆ 秘剣「一之太刀」を体得 未踏の剣境へ  
鹿島神宮に1,000日籠もり、秘剣「一之太刀」開眼

3度の廻国修行（「**大鷹を据え、乗り馬を引かせ、門人数十人を引き連れて馬上豊かに行列をつくった**」）

晩年は郷里で隠棲 83歳没

塚原卜伝 (1489～1571)

宮本武蔵 (1582～1645)



伝説：

月岡芳年 作「武蔵塚原試合図」

# 塚原ト伝年譜

19

|               |    |                                                                                                                            |
|---------------|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1489<br>延徳1   | 年齢 | 鹿島神宮の祠官、ト部（吉川）覚賢の二男に生まれ、初名朝孝（ともたか）、幼くして小領主塚原土佐守安幹に養われ、長じて <b>新左衛門尉 高幹</b> といい、ト伝斎、土佐入道と称す。                                 |
| 1505<br>永正2   | 16 | 父から家伝の <b>鹿島中古流</b> を、塚原土佐守から <b>飯篠長威斎の天真正伝神道流</b> を学ぶ。さらに十六歳で <b>廻国修行（1回目）</b> 十四年間腕を磨き、初めての真剣勝負や戦場での戦いを経験する。             |
| 1512年<br>永正9  | 23 | 鹿島一族の内訌が激化<br>剣術の修行、鹿島社に <b>千日参籠</b> して兵法の奥儀を開眼、極意を「 <b>一の太刀</b> 」と名づけ流名を <b>新当流</b> と唱える。<br><b>二回目の回国修業</b> に出かける。（約10年） |
| 1526年<br>大永6  | 35 | 高天原の合戦、 <b>松本備前守政信（鹿島神流）</b> 戦死<br>ト伝も奮戦して高名の首21ほかの戦功                                                                      |
| 1523年<br>大永3  | 45 | 天文元年（1532）に戻ると塚原城主となり、妙を妻に迎える。                                                                                             |
| 1556年<br>浩治2年 | 67 | 妻が亡くなると、城を養子に譲り <b>三回目の修行</b> の旅に出かける。多数の門弟を率いて諸国を歴遊、弘流。 <b>山本勘介 北畠具教</b> （一の太刀を伝授）、 <b>將軍足利義輝、細川藤孝</b> らの大名に刀槍の術を指南       |
| 1571<br>元龜2   | 83 | 晩年は郷里に帰って隠棲、高弟 <b>松岡兵庫助則方</b> の屋敷で逝去                                                                                       |

## 塚原 卜伝

時代 戦国時代  
生誕 延徳元年（1489年）元亀2年（1571年）  
享年83  
改名 吉川朝孝（幼名） → 塚原高幹 → 卜伝（号）  
別名 通称：新右衛門、土佐守、土佐入道  
主君 鹿島景幹 → 義幹  
氏族 吉川氏 → 塚原氏  
父母 父：吉川覚賢 養父：塚原安幹 兄弟  
吉川常賢、  
妻 妙（塚原安義の娘） 子 幹重

**武士のいかに心のたけくとも知らぬ事には不覚あるべし**  
(卜伝百首)







## 鹿島新当流（一の太刀）

21

- 塚原卜伝が鹿島神宮に千日参籠して神感を得、「一の太刀」という妙術を考案し新当流を号した。
- 無想の一気で切り伏せる秘剣
- 「敵を一刀で二つにし、二度と太刀を振り上げられないようにする秘術」
- 一つの太刀に生を燃焼しつくし、「氣に甲をも打ち割るほどの氣迫を込めた捨て身の技を精神」とし、二の太刀、三の太刀を用いない。（卜伝流剣術目録）
- 特徴：甲冑武道を基礎として想定された実戦的古武道で、甲冑の弱点とされる小手、喉、頸動脈、上帯通し等を突く（或いは切る）ことによって相手を制す
- 「唯授一人」の秘伝

## ト伝剣術・伝授・門人たち

- 天下一、実戦的武術、（甲冑の弱い所を突く斬る必殺技、形式道）
- 戦国動乱の必殺の剣法を生み出した一兵法無手勝流
- 危機を察知する能力一戦うのはやむを無い時のみ 「見越しの術」
- 神道から生まれた剣法～無念夢想、敵にあたる境地
- 悪魔をはらう、正義の剣
- 塚原家はト部氏:律令制下では、神祇官に属し、占いを専門とする役職、ト部氏:古代から続く氏族で、ト占や祭祀を家業とする。～ 呪剣の術
- 甲州武田氏の家臣、山本勘助に教授、伊勢の国司北畠具教に一の太刀を伝授
- 京都に上っては、将軍足利義輝（豪勇無双の第13代将軍）や細川藤孝らの大名に刀槍の術を指南
- 直弟子松岡兵庫之介の弟子に徳川家康

## 松本備前守政元

- 「**鹿島神流**」の開祖である。
- 「**鹿島神伝神影流**」「**直心影流**」の初代流祖
- 応仁1(1467?)~大永4(1524?) 別名尚勝 桓武天皇の末葉
- 常陸国・鹿島家の**宿老**、鹿島神宮の祝部（神官）（宮司は城主、禰宜は家老）、飯篠家直の門人となり「香取新道流」を学ぶ。
- 霊夢で源義経の秘巻物（六韜三略の伝）授かり神伝霊剣の太刀筋を得る。
- 「**神陰流**」「一つの太刀」を開眼
- 剣聖塚原卜伝（新当流）と上泉守信綱（新陰流）の師
- 鹿島氏内の内紛に巻き込まれ、高天神（高天原?）合戦で討ち死（57歳）
- 槍を合わすこと23回、高名之首25、並之首76と、100人以上を討ち取り奮戦、
- 剣術、柔術・薙刀術・十文字槍術・杖術・鎌術など

## 鹿島神流 国井善弥道之

- 国井 善弥（1894 - 1966）は、**鹿島神流第十八代宗家**。福島県いわき市出身。**「昭和の今武蔵」**
- 幼少期から家伝の鹿島神流（鹿島神伝直心影流）を教わる。19歳で外に出て佐々木正之進から**新陰流剣術**、栖原邦泰から**馬庭念流剣術**、妙道流柔術を師事。**鹿島神流を大成**させる。
- 陸軍戸山学校の教官。古流武術を組み直し、戸山流片手軍刀術を開発
- **心眼に裏図けられた精緻な剛剣**
- 表業は剣術・懐剣術・抜刀術・杖術・薙刀術・槍術、裏業は柔術・棒術などの総合武術



16世紀前半頃の戦国期、鹿島神宮の神職にあった**松本 備前守紀政元**神武の顕現に志す。常陸源氏國井 源八郎源景継（鹿島神流初代宗家）は鹿島に赴き**支え**鹿島の神前に奉仕して神示を仰ぐ。備前守は一之太刀を頂点とする武道大系としての**鹿島神流**を完成

# 神話的背景

カグツチ

国譲り神話

神武東征神話

篩靈剣の靈威



# 神話的背景

26

## 1. **武御雷神**（タケミカヅチ）とカグツチ

イザナギが火の神カグツチを斬った時に、剣の鏑際にほとぼしった血から生れた神。**武勇を司る神、雷神。**

## 2. **国譲りの神話**

## 3. **神武東征**

## 4. **黄泉の国神話**

イザナギが死んだイザナミを追って黄泉の国へ行く。そこで**汚れを意味する邪心としての雷神を、剣をもって呪術で追い払った神話～呪剣を振る鹿島の太刀の技術の起源**

## 国譲り神話

高天原の天照大神は、地上（葦原中国）を孫・瓊々杵命に治めさせようとする。

そのために、建御雷神と天鳥船神を地上に遣わし、様子を見させた。

建御雷神は、イザナギが火の神カグツチを斬ったとき、剣の血から生まれた神

## 国譲り神話2

28

二神は出雲の国稲佐の浜に降ると、十掬剣を抜いて逆さまに立て、その切先にあぐらをかいて座りる。

大国主神に「この国は天照大神の孫が治めるべきだ」と告げる

大国主神はしばらく考え、もし自分の子どもたちがよいのであれば、この国は天神の御子に譲ると答えた。

大国主神には、事代主神と建御名方神という二柱の子供がいた。長男の事代主神は譲るというが、次男の建御名方神は、力じまんの神でなかなか納得しなかった

## 国譲り神話 3

建御名方神が千引石を手の先で持ち上げながらやって来て、「力競べをしようではないか」と建御雷神の手を掴んだ。

建御名方神が、建御雷神の手をとると、氷のようになり（立つ氷）、剣の刃のようになったので怖じて退いた。

逆に建御雷神は建御名方神の手を取ると押しつぶして投げ離したので、建御名方神は、諏訪へ逃げかえった

大国主神はこれを受けて、国を譲る。代わりに、自分の宮殿を神々の宮殿のように立派に建てるよう願う。

その条件が受け入れられ、出雲の多芸志に宮殿が建てられた。

# 服属による支配

30

- 武力によらず、建御名方神も殺されず、**平和的に支配権が移された。**
- 相手の存在を認め、**祭祀権を保証することで自主的な服属を促した。**
- ヤマト政権の統一の特徴**は、皆殺しや破壊的征服ではなく、**服属による支配**だった
- 出雲の国は天照大神の孫・\*\*瓊々杵命（ににぎのみこと）\*\*に譲られた、一方壮大な出雲大社がつくられた。（祭祀の伝承）

## 『日本書紀』における異説

- 『日本書紀』では、建御雷神とともに**経津主神**（ふつぬしのかみ）も出雲に派遣されたと記述。
- 経津主神は武の神として**香取神宮**に祀
- 十握剣を地に突き立て、その剣先に座して**大己貴神（大国主神）**に**国譲りを迫る。**
- 両神はその後、東国の守護神・武の神として尊崇され、**現在も武道場に祀られている。**





## 剣の霊力

- 葦原中国平定の説話において、タケミカヅチらが大国主の前で**十掬剣（布留御魂）**を海の上に逆さまに刺し、その**切先にあぐら**をかいて威嚇している。何故倒立の状態か？
- 鋒先を天に向け、その頭、柄は地に突き立てられている。剣は逆立ちして神変を表す。
- 鹿島伝承では、柄を握り切っ先を下にして地に突き刺しその剣の前に座る。
- 武力に頼らず、平和的に事を成し遂げようとする姿勢。～平国の剣の思想



【國讓之図】平沢定治筆



くにむけ  
平国の広矛を奉る出雲・大国主神

香取神・鹿島神

れた神様であります。  
古事記には登場しません。

あ述 一取わ一 た武し立のし遣の

# 神武東征神話

## ▶ 神武天皇東征経路



- 神話の時代、天孫降臨を果たした**ニニギ命の曾孫にあたるイワレヒコ**は「ここから遠く離れた東方にこの国の中心に大和と呼ばれるすばらしい土地がある」と、九州の**高千穂**を出発し船で海を渡り**大和**を目指した。
- 東征の途中には**土地の豪族たちの抵抗や、激しい戦いによる兄の死など、幾多の困難に遭遇**しながらも一行は大和を目指す
- 一行が紀伊半島を周回しの熊野に上陸すると、悪神の毒気により兵士たちが次々と重い疫病にかかり倒れてしまい、全軍は壊滅寸前の状態に陥ってしまう。**(ナガツネヒコ)**

## 神武東征続き

- **高天原**では天照大御神と高木神（高御産巢日神）が地上世界の**喧騒を心配**し、武甕槌神を遣わそうとした
- **武甕槌神**は「自分が行かずとも、国を平定した特別な剣があるのでそれを天より降せばよい」という。
- 武甕槌神は**熊野の高倉下（たかくらじ）の夢**に立ち「天津神の皇子に献上しなさい」と伝える。
- 天から降された一振りの剣（**劔霊剣**）を、翌朝高倉下が皇子に捧げる。するとこの**剣の持つ不思議な力、起死回生の力**によって敵を平らげることができた。
- **八咫烏の案内**により熊野から吉野、大和へと進軍し、**無事に大和の平定**を達成。
- 皇子は**橿原宮**で初代の天皇、**神武天皇**として即位した。



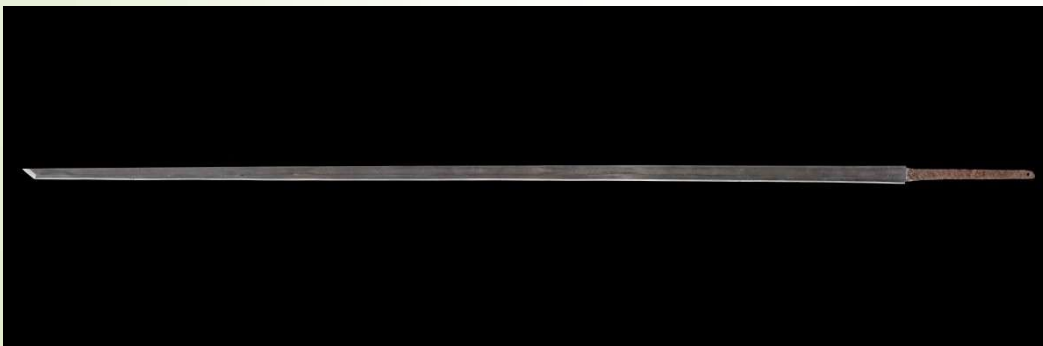


## 武御雷神と師霊剣



高皇產靈尊が、建御雷神の剣を神武に授ける

- ・「布都御魂剣」という神剣
- ・建御雷神の象徴とされる神剣。



神剣は後に、石上神宮（奈良県）に祀られる「布都御魂剣」として伝えられる

# 鹿島と香取

鹿島神宮と香取神宮の歴史・由緒



## 鹿島と香取

鹿島神宮

武御雷神

常陸国一宮

「鹿島の太刀」

鹿島新当流

鹿島神流

香取神宮

経津主神

下総国一宮

天真正伝香取神道流



海上・水上交通の要路  
ヤマト政権の東北経営

(蝦夷対策)

## 鹿島・香取は海上交通の要所

- ➡ 鹿島・香取の両神宮とも、古代より朝廷からの**軍神**として崇敬の深い神社。
- ➡ 古代の関東東部には、霞ヶ浦（西浦・北浦）・印旛沼・手賀沼を含む一帯に**香取海**という内海が広がっており、両神宮はその入り口を扼する地勢学的重要地に鎮座。
- ➡ 香取海は**ヤマト政権による蝦夷進出の輸送基地**として機能し、両神宮はその拠点
- ➡ **両神宮の分霊は朝廷の威を示す神**として東北沿岸部の各地で祀られた。鹿島神宮の社殿が北を向くことも、**蝦夷を意識**しての配置といわれる。



## 鹿島神宮



- 日本建国・武道の神様である「**武甕槌大神**」を御祭神とする、**神武天皇元年創祀**の由緒ある神社
- 皇紀元年（紀元前660年）
- 御祭神武甕槌大神の佩刀は**薙霊剣**
- 『古事記』の神武東征の段には、その力で悪疫を退散させ、平和をもたらす特別な剣。
- 延喜式は神宮は伊勢、鹿島、香取のみ
- 常陸国一宮
- 白馬祭、祭頭祭、御船祭
- 要石、御手洗、一の鳥居、
- 鹿島事触
- 塚原卜伝の墓がある。

## 武御雷神・要石・篩靈剣

- 社殿も北を睨み続ける北向きの間取り：東国の蝦夷の平定神
- 神武天皇に与えた剣：**篩靈剣（布都御魂）は武御雷神の剣**、神宝
- 直刀黒漆平文拵附刀唐米櫃 （国宝） ちよくとう くろうるしひょうもんたちごしらえ



本直刀は、刀身が223.4cm、鞘長が228.1cm、柄長が40.2cm、全長は271cmに及ぶ非常に大きな刀剣。現存する直刀としては、日本最古最大（約1300年前）



武御雷神とナマズ：要石、地震除け、

## 師靈剣（ふつのみたまのつるぎ）

】『古事記』『日本書紀』に登場する霊剣。

別名：布都御魂剣、佐土布都神、甕布都神、平国剣（ことむけのつるぎ）。

### ■ 神剣としての力と意味

- ・ 「ふつ」とは「断ち切る」こと。
- ・ 一振りで国を治める力を持つとされ、神武天皇が日本建国に用いたと伝えられる。

### ■ 石上神宮への奉納

- ・ 初めは神武の代に宮中で祭祀。
- ・ 崇神天皇の時代、物部氏の伊香色雄命が石上神宮に奉納。現在は同社の御神体とされる。

### ■ 鹿島との関係

- ・ 布都御魂は元は鹿島神宮の神・タケミカツチの剣。
- ・ 石上神宮に奉納された後、鹿島には新たに「二代目」が奉納され、今も伝わる。



## 藤原氏と鹿島神宮

**春日大社**の祭神は、**武神**を鹿島、香取から勧奨一武運長久、子孫繁栄を願う

・主祭神は4柱。春日神と呼ばれ、藤原氏の氏神である。

**武甕槌命** - 第一殿。藤原氏守護神（常陸国鹿島の神）

**経津主命** - 第二殿。同上（下総国香取の神）

**天児屋根命** - 第三殿。藤原氏の祖神（河内国平岡の神）

**比売神** - 第四殿。天児屋根命の妻（同上）

主祭神の武甕槌命が白鹿に乗ってきたとされることから、鹿を神使とする。

平城京に遷都され、都を力強いエネルギーで守ってもらって、地盤を固めて確固たるものにしようとした

鹿島には藤原氏前身の中臣氏に関する伝承が多く残るが、藤原氏祖の藤原鎌足もまた常陸との関係が深い。一鎌足神社（常陸国風土記、大鏡）

・ **大和政権の東国経営の重要拠点**



鎌足神社

## 鹿島神宮の祭頭祭・神幸祭・御船祭



祭頭祭



神幸祭



御船祭

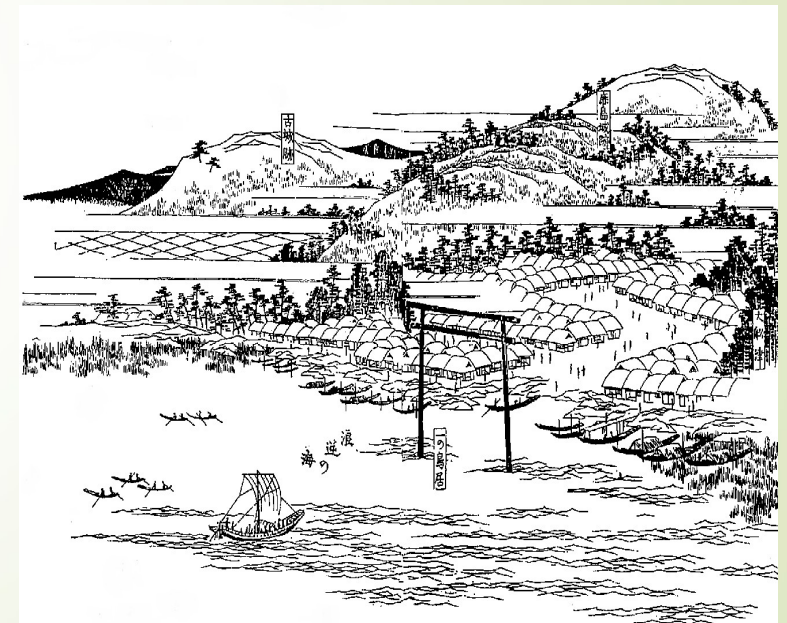
# 鹿島信仰

鹿島神宮には、神宮で占った吉凶の結果を全国に知らせて歩く「**鹿島事触**」(**かしまのことぶれ**)という活動を行っている集団がいました。「鹿島事触」は、鹿島信仰を広げるために、御幣を背負って町々を歩き、踊りを踊って人を集め、御神札を頒布した

江戸時代後半頃から、**鹿島神宮・香取神宮・息栖神社を遊覧・参拝する「東国三社参り」**が盛んになり、文人墨客が水郷巡りに訪れるようになる。

「木下茶船」(きおろしちゃぶね)

松尾芭蕉の『**鹿島詣**』





## 香取神宮



- 下総国一宮
- **経津主大神（ふつぬしのおおかみ）**
- 国譲り神話（**日本書紀**）：武甕槌大神（鹿島神宮の御祭神）も名乗り出て、二神が共に出雲に派遣される。
- 経津主命は、刀剣の神格化された側面を持ち、「**フツ**」という音は、刀が物を切る音
- 香取神宮は、鹿島神宮と対峙するように位置し、両社は古くから深い関係で結ばれています。
- 信仰:武勇長久、国家鎮護、勝運、交通安全、災難除け
- 物部氏との関係: **経津主命は元々物部氏の祖神**であったが、後に中臣氏（藤原氏）の祭神であるタケミカヅチにその神格が取って代わられたとの説
- 飯篠長威斎家直の墓がある。

## 息栖（いきす）神社

主神：久那斗神（くなどのかみ）  
相殿：天乃鳥船神（あめのとりふねのかみ）  
住吉三神を祀る。

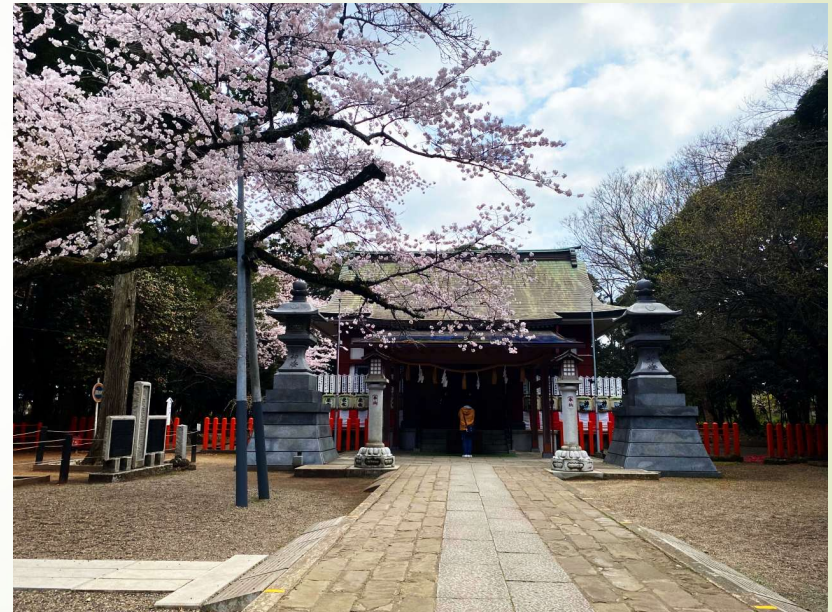
鹿島神宮、香取神宮と並ぶ神社は東国三社の一つとして信仰篤い

武神の乗り物「天鳥舟」というひかえめな存在の神

「土地の守り神」

井戸がご神体

「忍潮井（忍塩井）＝おしおい」





# 武御雷神と経津主神

47



## 刀剣の思想

- 古代日本において**剣は祭祀の具**：シャーマニズム的宗教観念／**神道**
- アミニズム：剣を**神聖視**、超自然の力、呪い／まじない
- 剣と神々との関係をもつ神話：「古事記」「日本書記」
- 「草薙剣」「**篩霊剣**」（フツノミタマノツルギ）
- 「**神妙剣**」～「鹿島の太刀」：**神の力を借りた呪剣**の技術
- 「国譲り神話」武御雷神―「剣を突き立て座る」～「切っ先を地に突き立てて後ろにしてその前に座る」
- **平国の剣**：国を平らげる**治国の象徴**としての**霊剣**～武力にたよらず**平和的に国譲り**を完結

## 刀剣の種類

片刃のものを「刀」といい斬ることに特化、両方に刃のついているものを「剣」といい突き攻撃が有利。



直刀(大太刀)



太刀



打刀



脇差



短刀

# 刀剣の歴史

50

最初期の刀剣は、両刃（もろは）の剣や反りのない**直刀**

**古墳時代から奈良時代**にかけての**主武器**は槍や矛、弓矢。  
刀剣のほとんどが**神事**に利用、

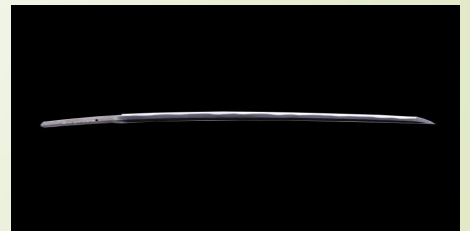
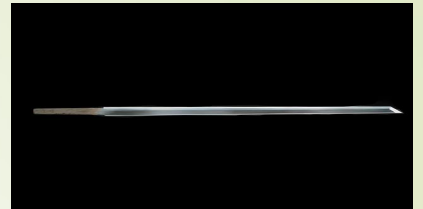
**平安時代中期**、騎馬戦を主とするため反りの付いた刀が求められる。

反りが付くことによって、斬撃の鋭さが増す。「大刀」は  
**「太刀」**（たち）と変わり、**片刃の湾刀**である日本刀が誕生。  
細く優美

**鎌倉時代**は、武士の質実剛健な気風、身幅が広く頑強となり、より実践的な姿「折れず、曲がらず、よく切れる」**大太刀**

**戦国時代**は合戦の規模が拡大し、徒歩での集団戦が主流。  
有利となる**「打刀」**（うちがたな、60cmほど、刃を上にして佩用

**桃山時代以降** 刃文や刀身彫刻も華やか。鑑賞に堪え得る日本刀が好まれる。特権階級の象徴、武士の鑑



# 鹿島の太刀の術理・理念

一の太刀とは  
神妙剣とは



# 古武道における「形」

52

古武道では**形稽古**を基本とし、先人の「**術技の集積**」「**心の集積**」である**形を繰り返し稽古**することによる、**心身の鍛錬**。

- **技術伝承**: 形は、口伝や文書だけでは伝えきれない動きの微妙なニュアンスや、**身体の使い方を、反復練習によって習得～無意識で実戦に役立つ**
- **心身鍛錬**: 技術を習得するだけでなく、集中力、バランス感覚、体幹の強化など、心身全体の鍛錬につながります。**身体感覚を磨く**
- **精神修養**: 武士道の精神や、礼儀作法、相手を尊重する心など精神的な成長を促す。
- **芸術性**: 洗練された動きの中に**美しさや様式美**
- 剣術の**所作・気・心のあり方**を説き、我と敵の関係・刀の構え、切り方、受け流し方などを、一連の動きとして体系化 弓道—**正射必中**
- **精神面**や境地について、最終的に達した者は、敵が生じず、周囲にも現れないとしめくくる。



武芸十八般

# 鹿島神流の理念

53

- ➡ 鹿島神流の稽古において組太刀：「基本太刀」「裏太刀」「相心組太刀」「実戦太刀組」「合戦太刀」「鰐競・倒打」「拔刀術」
- ➡ 即実性のある「形稽古」を行なうことによって実戦的な技を身に付ける。
- ➡ 木刀、袋竹刀、真剣による寸止め
- ➡ 表業は剣術・懐剣術・拔刀術・杖術・薙刀術・槍術など、裏業は柔術・棒術
- ➡ 包容同化の剣：全ての技を螺旋運動として操る
- ➡ 五ヶ之法定：「動静一体、起発一体、攻防一体、虚実一体、陰陽一体」  
の原理 一挙動

**鹿島新當流**

実戦剣術

技の切れ重視

武士階級向け

「一撃で勝つ剣」

**鹿島神流**

精神・神道剣術

心の静けさ・正中重視

神官・修験者向け

「整え祓う剣」

| 要素   | 鹿島新當流（吉川家系）           | 鹿島神流（国井家系）                |
|------|-----------------------|---------------------------|
| 稽古体系 | 実戦・立ち合いを前提にした形        | 精神修養・神事的所作を重視した形          |
| 形の分類 | 表形・裏形・合口・居合など         | 初伝之形・中伝之形・正伝之形（神道的な段階構造）  |
| 技の焦点 | 「一の太刀」で決める、変化技を重視     | 正中を取る、氣を整える、祓いの動作         |
| 体さばき | すばやく切り込む一足一刀の間合での打太刀  | ゆったりとした動作で、天地との調和を意識した運剣法 |
| 剣の扱い | 一撃で勝負を決めるための直線的・斬撃的操作 | 神意を体現するための循環的・祓いの剣操作      |
| 表現性  | 勝ち負けの明示、相手を制する流れが明確   | 相手と調和する中で己を整える、勝敗にこだわらない  |

## 神妙剣

- 国摩真人は鹿島神宮の高天原に祭壇を築き、日夜熱心な祈禱を捧げて祭神タケミカヅチ神の節霊剣（ふつのみたまのつるぎ）の法則、「神妙剣の位」を授かったと伝えられており、これが日本の武道の発祥「鹿島の太刀の、\*\*鹿島神宮に伝わる霊剣（神剣）」
- 布都御魂剣（ふつのみたまのつるぎ）：鹿島神宮（茨城県）神霊を宿す剣として、**武神・建御雷神と一体視**される。
- 「**神妙**」とは、「神秘的で不思議なほどすぐれている」という意味。
- **邪気を祓い、国を平定し、神々の意志を示す神具。**
- **武徳**：勇気・戦の神としての威厳を示す **正義**：力によらない正しい統治、道理の支配 **神威**：神の意志が剣を通して顕現する存在
- **古武道の精神を体現した形**
- **不意の攻撃への対応**:左側から不意に攻撃された状況を想定した形。
- **中心の重視**:敵の攻撃を受け流し、中心を奪うこと。
- **力ではなく理合**: 力任せに動くのではなく、体の使い方や動きの理合。



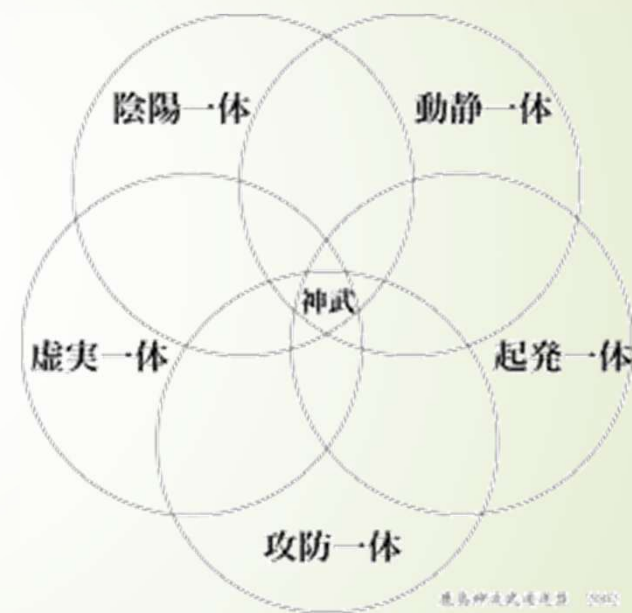
## 篩靈剣の法則

- 7世紀に鹿島神官の国摩真人が高天原に熱禱闘を籠めて、武御雷神より授かった霊位。
- フルノミタマ（降る・布都の御霊） 神の力・霊威・剣そのものの象徴「**神が降臨する**」 **「神の霊が現れる形」**
- 「閃すれば国中が平和になる」～**平国の神剣**
- 鹿島七流～国を平和にすべき神の業
- 強い決断力と神剣をふるう作法、道理などを授かった。
- **ものの道理を明らかにし、強い決断力を示す平国の神技**

## 鹿島神流武術の技術体系

技の起こりの形であると同時に技の最終形であり、動きを内在した静止状態

五ヶ之法定  
「動静一体、起発一体、攻防一体、虚実一体、陰陽一体」の原理



五ヶ之法定

## 包容同化の剣とは

「**包容同化**」とは、多様な文化や価値観を持つ人々が、互いに尊重し合いながら、一つの社会の中で共存していくことを目指す概念

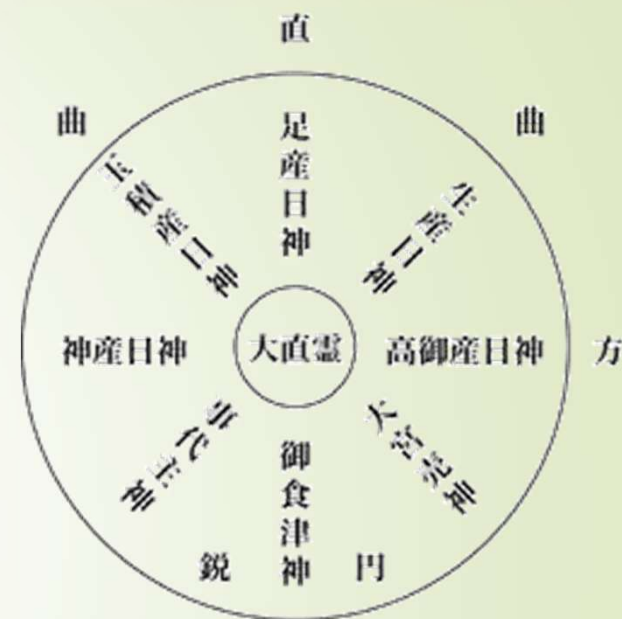
物理的基本原理としての「**方円曲直鋭**」が**鹿島神流**の重要な要素である。

**全ての技を螺旋運動として操る**ための基本法則。

究極的に「**宇宙創元の理**」へと収斂

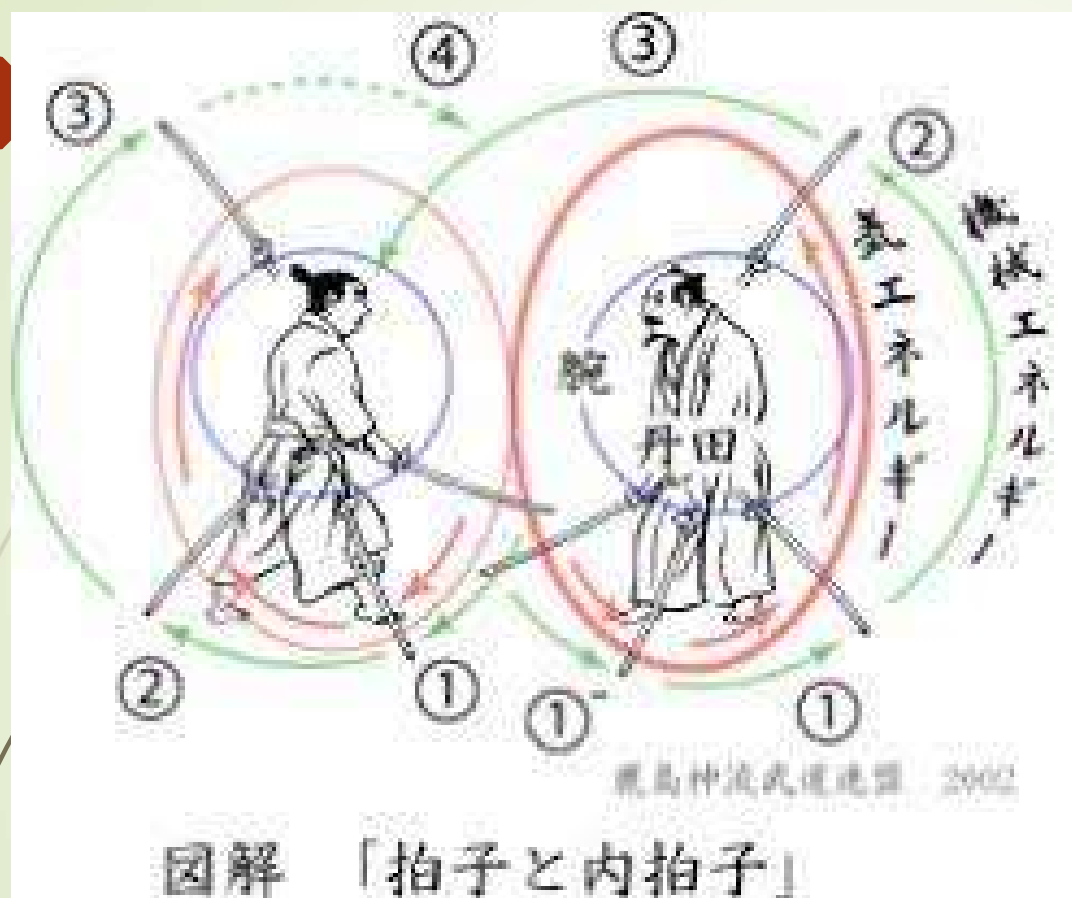
武術をも**発顕・還元・推進を繰り返す**無始無終の自然現象として捉える

技の起こりの形であると同時に技の最終形であり、動きを内在した静止状態



鹿島神流武術道場 2002

方円曲直鋭



昭和の武蔵と呼ばれた国井善弥師

# 武道の歴史



# 武道の歴史 1 先史時代

## ➤ 先史時代の武器と武術

- 縄文時代：柄先に石器を付けた槍、短い弦の弓、**石鏃の矢**で小動物の狩猟した。集団による戦いはない。
- 弥生時代：稲作農耕、環濠集落、水利権争いからの**集団戦**、青銅器の**両刃の剣**、**鎧、剣、矛、鏃、弓、埴輪**
- 古墳時代とヤマト王権の統一（4世紀～5世紀）

### 倭国の統一～宗教的首長から武人的首長

朝鮮半島（百済、新羅）、三韓征伐神話での戦い

出土品（**短甲、鉄兜、長槍**）

騎兵～馬の導入（**鞍、鐙**）

挂甲武人



## 武道の歴史 2 飛鳥・奈良時代

- : 百済の滅亡（唐・新羅連合軍）白村江の敗北
- **防人（対馬・壱岐・筑紫）：北九州沿岸の海辺防衛**
- **天皇を中心とする中央政権制**
- **朝廷の警護と都の治安－衛府**
- **地方国衙の軍団－軍事・警察**
- **東北の蝦夷対策－鎮守府**
- **防人は東国諸国から鹿島神宮に集められ訓練を受けてから難波に輸送され、九州の任地に送られた－「鹿島立ち」**
- （歩兵，帯刀、弓。矢50本、弓・槍・投石を訓練された）
- 大友旅人（南九州隼人征伐）・大友家持（鎮守府将軍）、坂上田村麻呂（征夷大將軍）

## 武道の歴史 3（平安時代）

64

歩兵集団から騎馬武者中心に発展—**弓馬を重視**～職能集団

- 武士の誕生 10C :
- 平将門の乱、藤原純友の乱～**令外官**による鎮圧～**武士の棟梁**
- 平貞盛（常陸掾）～平清盛  
藤原秀郷（下野**押領使**）～奥州藤原氏～侍  
源経基（武蔵介・**追捕使**）～清和源氏～源頼朝
- ・ **検非違使**：京の治安維持、警察
- ・ **日本独自の弓矢と刀剣と大鎧～長弓、刀鍛冶（太刀）、**
- ・ 保元・平治の乱：北面の武士～平家の覇権～源平合戦  
～鎌倉幕府の誕生



## 武道の歴史 4（鎌倉時代）

- ➡ 弓術と馬術を基本とする「**弓馬の道**」
- ➡ 源頼朝による武芸奨励
- ➡ **巻き狩り**は御家人を動員する軍事指揮権を誇示する演習
  - ・ 鶴岡八幡宮の**流鏑馬奉納**、**笠懸**、犬追物の武芸訓練
  - ・ 小笠原流弓馬術：武家故実、**弓術**、**弓馬術**、**礼法**の流派
  - ・ 元寇の衝撃
    - ～騎兵を密集させる集団戦



## 武道の歴史 5 室町・戦国時代

66

- **天下統一期～江戸初期**：合戦が起きる可能性があり、武将大名が有力な武芸者を競って招く。～天下一、武者修行と多様な剣術流派の展開、
- **流派武術の成立—剣術・弓術・柔術、槍術、弓術、砲術など技術化・体系化～形の原型**
- **兵法三大源流（陰流、神道流、念流）**
- **剣術 鹿島の太刀—香取神道流（飯篠長威斎家直）、新当流（塚原卜伝）**
- **念流—中条流・富田流の流れ 陰流—新陰流の流れ**
- **（真剣勝負から木刀、袋撓の組太刀・勢法の形稽古）**
- **新陰流**：室町時代に上泉信綱によって創始された剣術流派で「活人剣」を重視し、相手の動きを利用して勝つことを目指す
- **鍛錬を通じて心技体を鍛え、真の人を形成することを目的**
- **鉄砲伝来による戦闘法への影響、変化**



## 武道の歴史 6 江戸時代

67

- 一国一城令、兵農分離、武芸奨励（鷹狩）
- 幕藩体制のなかで各藩は指南役求め、武術な流派は、戦乱の収まったが発展（御留流）
- 武芸文化：兵法師範柳生宗矩「兵法家伝書」、宮本武蔵「五輪書」
- 戦闘技術は武士道の理念や禅宗・密教と繋がり（剣禅一致）、武術が人を殺めるための「術」ではなく、人格形成のための「道」として本格的に捉えられていく精神性重視—  
武士道
- 幕末：本土への外国船の接近が相次ぎ、武芸教育への関心が高まる。藩営の武芸稽古場・演武場を設置。全国で武者修行や他流試合、武術留学が流行。様々な流儀で交流が行われ、剣術や槍術、柔術などで防具で竹刀打ち込み稽古が主・形稽古が従となる。江戸の町道場が隆盛—撃剣が下級武士、豪農層
- 幕末の名人（千葉周作、近藤勇、坂本龍馬、桂小五郎、勝海舟、山岡鉄舟）

## 武道の歴史 7 明治以降～現代

68

- 明治維新後、文明開化中で**武術は時代遅れと断ぜられ衰退した。廃刀令**
- 武術家たちは**撃剣興行等**の見世物興行
- 西南戦争で警視庁の**抜刀隊**が剣術を用いて白兵戦
- **警察**に武術世話掛が創設。日本式の**軍刀術、銃剣術**を制定
- 現代武道の誕生：柔道創設（**嘉納治五郎**）
- 各種武道の総本山となる**大日本武徳会**が設立
- **戦後**：GHQ指令により**大日本武徳会は解散**し、武道の**組織的活動は禁止**
- **現代武道**が**体育的見地からの心身の鍛錬を目的**とし、**スポーツ系統の競技試合を重視**して技術の体系を構築
- **古武道**は基本的に**試合での勝敗を目的とせず**（流派によっては他流試合を禁じる）、**合戦・決闘・護身や、戦闘で使命を果たすための心身鍛錬**が本来の目的



# まとめ

武道と神道との関係性・精神性

## まとめ

- 鹿島・香取は武の発祥地 （武御雷神、経津主神）
- 鹿島の太刀は神道的世界観を持つ武道
- 武御雷神一篩霊剣
- 飯篠長威斎（天真正伝香取神道流一飯篠家）、鹿島新当流（塚原ト伝一吉川家）  
鹿島神流 （松本備前守、国井家）
- 「国譲り神話」「神武東征」
- 鹿島・香取は水上交通の要所、ヤマト政権の東国経営の拠点、鹿島立ち（防人）
- 一の太刀～一神授の剣～～術理（一挙動、らせん）
- 心技体の鍛錬一楔、祓い～精神性

# 神道とは

- 日本の古代からのカミ信仰、儀礼、習俗から神社、祭祀儀礼の神道へ
- **自然の力を神々の働き**として捉え、清浄な山や岩、木や滝などの自然物に神さまが宿り祭りをする起源。神社の本来の姿は**磐座、山、木**などがご神体—**アニミズム**
- **山川草木悉皆仏性**：あらゆるものに生命が宿る神の**形代**、自然に生命を生み出す力を感じ、地にも霊を感じ人間の力を超えたカミ「**八百万の神々**」
  - ・ **禊・祓い**  
—滝行、山籠り「身を清めと心済ませること」—**霊力**
  - ・ **神仏混合**：仏教も「今来の神」として受け入れる
  - ・ **剣術**：鹿島の神官、鞍馬の山伏
  - ・ **弓**：悪霊を払う射礼



## 武道とは

- 武道とは、武士道の伝統に由来する日本古来の**武技の修錬**による**心技一如**の運動文化。**心技体**を鍛え、**人格**を磨き、**道德心**を高め、**礼節**を尊重する態度を養うことを目的。（武道憲章）
- **相手を尊重する気持ち**や**礼節**大切に考える。
- **残心**の心構え：気を抜かない、全身全霊を尽くす、美しい所作
- **相手への敬意**：相手を尊重し、油断なく対峙することで、真の強さを追求する

## 武道と神道の精神性

73

### 武道の精神性

- **心技一体**：技術を磨くのみならず、精神的な成長を重視。心と技が一体となることで、より高いレベルの武道を追求。
- **残心**：勝敗に一喜一憂することなく、常に**平常心**を保ち、相手への敬意を払うこと（剣禅一致）
- **人格形成**：武道は、礼儀作法、忍耐力、自己制御、集中力などを養う

### 神道の精神性

- **自然崇拝**：神道は、山や川、木々など、自然の中に神が宿るえ、畏敬の念——自然崇拝の思想は、武士の精神にも影響を与えた。**国土や領土を愛する心**を育む。
- **祖先崇拝**：神道では、祖先を敬い、その恩に感謝することが重要。武士道においても、祖先を大切にする精神は重要。
- **神への奉仕**：神道では、神に仕えることが人々の生きる目的の一つ。武道においても、神仏に祈りを捧げ、武芸を修めることで、神に奉仕するという考え方がある。

## 武道と神道の関係性

- 武道は、武士道の精神を基盤とし、**心技体を一体として鍛錬すること**で**人格形成を目指す道**であり、神道は、自然や祖先を敬う心を重んじる信仰。武道の実践や精神性には、神道の思想や儀式が影響を与えており、武道を通して**神道的な精神性**を体得することが可能。
- 武道と神道は、礼儀作法、**精神の鍛錬、自然との調和**といった共通の価値観を持つ。神道は、祖先崇拝、**神への祈り、平国**といった武士道に不可欠な精神を育む役割を果たした。
- **無我の境地、強い決断力、**

### 「見神体験」

全生命を三尺の剣に託して戦う時、自分には人間以上のものの加被力があると信ずる、または信じたいという心理。～**神の加護**～**武運長久**～**神授、天祐、天啓**

## 鹿島の秘太刀

- ➡ 「鹿島の太刀」は単なる攻撃手段ではない。**天地自然と一体となった調和の剣。**
- ➡ 「神授の太刀」「正中の太刀」「無念無想」「剣禅一致」などの概念に通じ、**剣を通して心を清め、霊を鎮める**
- ➡ **我也斬り彼も斬る一内外2方向性**
- ➡ 相手に勝つと同時に**敗者に対する思いやり一和の産出～むすび**
- ➡ 禊祓の精神：**正気をはって邪気を払うこと**
- ➡ 奉納演武：**「神に捧げる行」**

## 主な参考文献

1. 「刀剣の歴史と思想」 酒井利信 日本武道館 2011
2. 「日本の古武道」 横瀬和行 日本武道館 2001
3. 「鹿島神傳武術」 關文威 著杏林書院 2010
4. 「日本の伝統文化「武道」」 魚住孝至 山川出版社 2021
5. 「剣客の時代」 歴史への招待 NHK編 1990
6. 小説『塚原卜伝十二番勝負』 津本陽 講談社文庫
7. 小説「一の太刀」 柴田錬三郎 新潮文庫
8. 小説「無敗の剣聖」 矢作幸雄 講談社

## 鹿島の秘太刀一至誠館 明治



<https://www.youtube.com/watch?v=sleJNQYABqY>



# 関係動画

78

- ▶ 鹿島神流 公式奉納演武 (鹿島神宮)

[https://www.youtube.com/watch?v=wgGXp0\\_puqc](https://www.youtube.com/watch?v=wgGXp0_puqc)

- ▶ 鹿島の秘太刀 (明治神宮・鹿島神宮)

初伝 : <https://www.youtube.com/watch?v=sleJNQYABqY>

中伝 : <https://www.youtube.com/watch?v=CBwhGrPnE8E>

奥伝 : <https://www.youtube.com/watch?v=eW9LqhjDA7A>

- ▶ 鹿島新当流 (鹿島神宮奉納演武)

<https://www.youtube.com/watch?v=It0ZJvgHUsA>

- ▶ **NHK BS時代劇** 塚原卜伝

[https://www2.nhk.or.jp/archives/movies/?id=D0009010851\\_00000](https://www2.nhk.or.jp/archives/movies/?id=D0009010851_00000)

**ご清聴ありがとうございました**